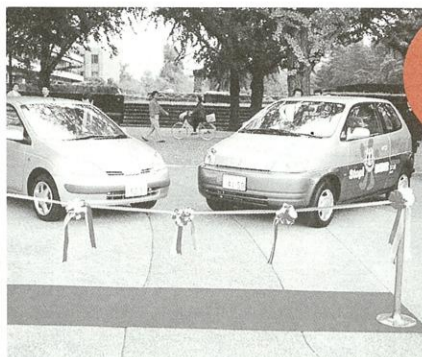


特集
この一年を振り返る



ますます元気になります。ますます優しく。新しい熊本づくりが進んでいます。

1月 省エネルギー・省資源のための 省エネルギー・省資源のための 率先行動などを開始



地球温暖化防止の観点から、県庁が率先して省エネルギー・省資源に取り組むこととし、冷暖房温度の変更や昼休み時間の一斉消灯などを始めました。また、四月には、県が行う公共事業等について、自主的に環境への配慮を行う制度を全国に先駆けて導入。健康への悪影響が心配されているタイオキシン類についても、各種調査や県施設での焼却炉の使用廃止などの対策を開始しました。

1月 アジア地域諸国との交流進む



本県と姉妹提携を結んでいる韓国忠清南道は、米国モンタナ州に続き、県庁内に忠清南道熊本事務所を開設。本県及び日本における活動拠点として、経済交流などの分野で早くも事務所開設の効果が表れ、今後ますます両地域の交流の架け橋となることを期待されています。また、中国広西壮族自治区との友好交流やアジアネットワークフォーラムの開催など、アジア地域諸国との交流が進みました。

1月 新たな森林整備の指針を作成

県と市町村でつくる県森林整備協議会は、今後の森林整備のあり方や県と市町村の役割などの指針となる報告書を作成しました。県内の森林を、



木材生産や憩いの場、水源かん養など公益的な役割を担う場などに区分けし、整備を進めることとしています。森林が公益的な役割をより発揮できるよう、伐採年齢の長期化や行政の役割の強化を打ち出した点も特徴の一つです。さらに、上流と下流の連携による森林整備を推進していきます。

1月 交通網の整備が着実に前進



南九州西回り自動車道の八代市内での開通をはじめ、国道324号広瀬バイパス本渡市の完成や、国道57号熊本東バイパスの六車線化、国道3号熊本北バイパス・国道387号小国バイパス(小国町)などが一部開通。また、熊本港に高速カーフェリーが就航したほか、天草空港を拠点に近距離航空事業の展開を目指す航空会社「天草エアライン株式会社」が設立されました。

1月 ぐまもと未来団体の準備が進む



来年秋開催のぐまもと未来団体にむけて準備が進みました。花いっぱい運動やボランティア活動など、多くの方が県民運動に参加。競技別のリハーサル大会も本格化しました。九月の一年前イベントにも約三千人が集まり、団体ムードを盛り上げました。また、大会のメイン会場であり、県民のスポーツ振興の拠点となる熊本県民総合運動公園陸上競技場が完成しました。

4月 熊本県防災情報システムが運用を開始



災害時に県の防災の中核拠点となる防災センターに、防災情報システムが完成、運用を開始しました。気象情報、震度情報、水防テレメーター情報や被害情報などが、県内五十七の関係機関とのネットワークを通じて伝達されます。システムの完成によって、災害予防と災害時の応急対策に大きな前進をもたらすものと期待されています。

4月 7月 青少年の教育の場が充実



県内では初めての海型の青少年教育施設として、あきた青少年の家がオープンしました。白い砂浜に青い海を誇る芦北海岸に、宿泊施設やキャンプ場、五百人収容の文化ホールや体育館、各種研修室を備えています。また、玉名、荒尾地域の市町村が設置を進め、県も支援を行っていた九州看護福祉大学が開学。青少年の教育の場がますます充実しました。

5月 優しいぐまもとづくりへ向けた取り組みが進む



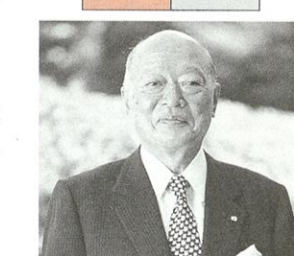
障害のある方が生き生きと暮らせる社会をつくるため「ぐまもと障害者プラン」を策定。また、身体に障害のある方々の国内最大のスポーツ大会「ハートフルくまもと大会」を開催。大会一年前記念イベントでは、ボランティアと障害のある方々が交流を深め、大会の成功を誓いました。

2月 地方分権や 広域行政への 取り組みが進む



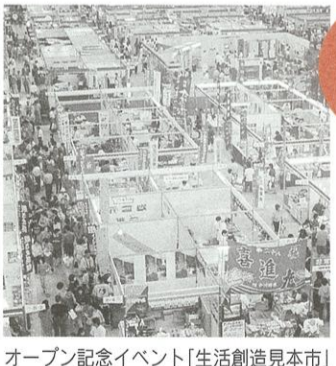
今年も残すところわずかとなりました。この一年の県政を振り返りますと、大変厳しい社会経済情勢の中でありましたが、「躍動するぐまもとづくり」と「優しいぐまもとづくり」のそれぞれの分野で、着実に県政を進めさせることができました。当面の緊急課題である県政改革については、過去最大規模の補正予算による公共事業等の実施、中小企業向け融資の拡充など、県としても最優先で取り組んでいます。

知事室から



熊本県知事 福島謙二

3月 グランメッセ 熊本がオープン



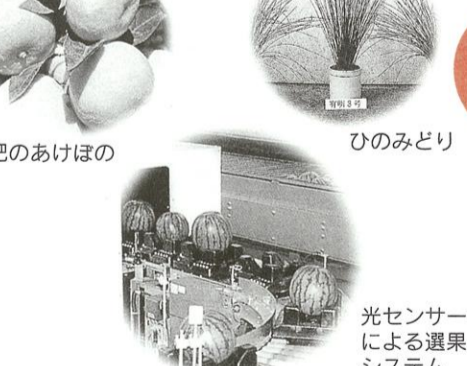
県経済界から長く整備が望まれていた産業展示場「グランメッセ熊本」がオープンしました。八千平方メートルの展示ホールは、西日本でも最大級。オープン記念イベント「生活創造見本市」には約九万三千三百人が参加しました。

10月 介護支援専門員の養成が本格化



平成十一年四月施行の介護保険制度の中で、相談に応じ、介護サービスの計画作成などに当たる介護支援専門員の業務研修を受けるための試験を実施するなど、円滑な導入に向けた準備が本格化しました。介護保険に対する関心の高さを反映し、試験には、医師や看護婦、介護福祉士など、保健、医療福祉の分野から約六千人の受験があり、約二千三百人が合格しました。

10月 11月 農業分野で新品種が相次ぎ登場



県が開発したいくさ新品種「ひのみどり」の作付けが始まりました。茎が細く、鮮やかな緑色が特徴です。極早生温州みかんでは、「肥のあけほの」豊福早生がデビュー。見た目、中味ともすぐれ、高値をよびました。また、本県が全国に先駆けて導入した糖や酸を測定する光センサーにより厳選されたデコボロやスイカ、メロン、みかんは、市場で高い評価を得、熊本ブランドの確立に弾みがつきました。

12月 県民にわかりやすい行政改革を推進



県では、第二次行政改革大綱に基づき、県民や地域の視点に立った行政改革を進めています。さらに社会経済情勢の変化などを踏まえた審議会からの答申をもとに、大綱の見直しを行うことにしています。その中で、情報公開の推進を取り組みの柱の一つとする等、目標の見直しや数値化などによって県民の皆さんにわかりやすい行政改革を目指します。

人の来場者が訪れ、その後も多くの催しに利用されています。今後も、人もの情報との交流拠点として県経済の活性化に貢献することが期待されています。

3月 九州新幹線鹿児島ルートが前進



九州新幹線鹿児島ルートは、船小屋、新八代間の建設工事が起工され、平成三年から工事が進められている新八代、西鹿屋間と併せ、全線の約八十五パーセントが着工区間となりました。また、本県の発展を図るうえで重要な事業となる熊本駅周辺地域の整備についても、地域住民の方々の十分な理解のもとに円滑に事業を進めるため、県と熊本市の合同事務所を設置しました。

3月 熊本テクノポリス計画が新たな段階に



第三期開発計画が全国で最初に国の承認を受け、熊本テクノポリス計画は新たな段階を迎えました。この計画に基づき、産学行政が連携して研究開発を行う共同研究棟の整備が着手され、貸工場が完成するなど、新産業の創出と産業集積の高度化への支援が進みました。第二テクノパークでは、第二期分譲が開始され、県立技術短期大学の整備が完了しました。

4月 過去最大規模の経済対策を実施



早期の景気回復を図り、社会資本の着実な整備を進めるため、県としての経済対策を決定し、公共事業の前倒し発注、過去最大規模となる総額五十七億円の補正予算による公共事業の追加を行いました。また、「中小企業の経営安定対策」として、制度融資等の拡充や信用保証協会の基盤の強化などを図りました。



今年のかながわ大会での県選手団の入場



第二次行政改革大綱の見直しの答申